

科目名	基礎演習Ⅱ	科目コード	W10311		単位数 時間	4単位 60時間	対象 学年	1年	開講 学期	通年	
		科目ナンバリング	W-BESE1-01.H								
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	高橋 未央				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 文章の作法について習熟する：①説明的な文章を読む ②他者の説明や発表を聞く ③質問をして理解を深める ④実際に資料・文献を探し、読む ⑤実際に現地に調べに行く ⑥自分が調べたことを文章・図表にまとめる ⑦作成した図表を使って発表する ⑧これらを繰り返して、「批判的に読む・聞く」「具体的に調べる」「調べた結果をまとめ、論理的に説明する」ことを練習する										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 DP3、CP11に関連している										
到達 目標	論理的な筋道をたてて発表原稿をまとめたり、事実をわかりやすく示す図表を作成することなどの作業を通して、調査やプレゼンテーションに習熟することを目指します。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備 考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備 考
第1回	「よむ・きく・しらべる・はなす」の基礎①	地理に関する本をひとつ取り上げ、皆で分担して読みます。調べながら読むことはもちろんですが、内容をまとめた「レジメ」を作成し、資料を示して話すことで、発表の方法をさらに向上させます。また、ひとりの発表について、全員が必ず質問し、理解・思考を深める訓練を繰り返します。				第16回	「よむ・きく・しらべる・はなす」の実践①	文献・資料調査や野外調査を行い、実際に地図を作成することを通して、地理情報を含む様々な情報を整理・解析・発信する方法について学びます。			
第2回	「よむ・きく・しらべる・はなす」の基礎②				第17回	「よむ・きく・しらべる・はなす」の実践②					
第3回	「よむ・きく・しらべる・はなす」の基礎③				第18回	「よむ・きく・しらべる・はなす」の実践③					
第4回	「よむ・きく・しらべる・はなす」の基礎④				第19回	「よむ・きく・しらべる・はなす」の実践④					
第5回	「よむ・きく・しらべる・はなす」の基礎⑤				第20回	「よむ・きく・しらべる・はなす」の実践⑤					
第6回	「よむ・きく・しらべる・はなす」の基礎⑥				第21回	「よむ・きく・しらべる・はなす」の実践⑥					
第7回	「よむ・きく・しらべる・はなす」の基礎⑦				第22回	「よむ・きく・しらべる・はなす」の実践⑦					
第8回	「よむ・きく・しらべる・はなす」の基礎⑧				第23回	「よむ・きく・しらべる・はなす」の実践⑧					
第9回	「よむ・きく・しらべる・はなす」の基礎⑨				第24回	「よむ・きく・しらべる・はなす」の実践⑨					
第10回	「よむ・きく・しらべる・はなす」の基礎⑩				第25回	「よむ・きく・しらべる・はなす」の実践⑩					
第11回	「よむ・きく・しらべる・はなす」の基礎⑪				第26回	「よむ・きく・しらべる・はなす」の実践⑪					
第12回	「よむ・きく・しらべる・はなす」の基礎⑫				第27回	「よむ・きく・しらべる・はなす」の実践⑫					
第13回	「よむ・きく・しらべる・はなす」の基礎⑬				第28回	「よむ・きく・しらべる・はなす」の実践⑬					
第14回	「よむ・きく・しらべる・はなす」の基礎⑭				第29回	「よむ・きく・しらべる・はなす」の実践⑭					
第15回	「よむ・きく・しらべる・はなす」の基礎⑮				第30回	「よむ・きく・しらべる・はなす」の実践⑮					
評価 方法 及び 評価 基準	学年末のレポート 60% 授業への参加状況（発表・質問の回数など） 40%										
課題等	自分の担当箇所の発表および他の個所で質問をする必要があります。質問に答えられなかった箇所が宿題になります。										
事前事後 学修	自分の担当箇所の発表準備や他の個所の質問を考えておく必要があります。作業方法を自分で調べる必要があります。										
教材 教科書 参考書	テーマに沿って、ゼミのメンバーと教員で話し合って講読する書籍を選びます。										
留意点	演習の題材にする書籍の購入と、学外へ調査に行く場合には、交通費や弁当が必要になります。										

科目名	基礎演習Ⅱ	科目コード	W10313		単位数 時間	4単位	対象 学年	2年	開講 学期	通年
		科目ナンバリング	W-BESE1-01.H			60時間				
区分	基礎教育科目 必修	担当者名	藤岡 真之				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	【授業の主旨】 本演習では、社会学あるいはその近接分野の文献（社会問題、社会意識、コミュニケーション、ネットワーク等の分野）を読み、その内容についての議論を行う。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。									
到達 目標	・文章を読む力をつける ・論理的な思考力を高める。									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考			
第1回	ガイダンス	演習の進め方について		第16回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション			
第2回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第17回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション			
第3回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第18回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション			
第4回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第19回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション			
第5回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第20回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション			
第6回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第21回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション			
第7回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第22回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション			
第8回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第23回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション			
第9回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第24回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション			
第10回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第25回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション			
第11回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第26回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション			
第12回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第27回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション			
第13回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第28回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション			
第14回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第29回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション			
第15回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第30回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション			
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度、報告を総合的に評価する									
課題等	課題の検討は授業時間内に行う									
事前事後学修	使用するテキストを読んで、理解を深めてください。準備学習時間の目安：週当たり3時間程度。									
教材 教科書 参考書	講読する文献は、事前の合同ゼミ説明会の際に提示する。									
留意点										

科目名	基礎演習Ⅱ		科目コード	W10314		単位数 時間	4単位 60時間	対象 学年	2年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-BESE1-01.H							
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	小川幸裕				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	<p>〔授業の主旨〕 本演習は、課題発見力やディスカッション能力といわれる専攻を問わない能力のみならず、専攻分野に対する意欲、興味をさらに深める動機づけの演習を行う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1及び2に関連している。</p>										
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・発表レジメを作成できる。 ・論理的に思考できる。 ・情報を収集し分析できる。 ・自分の意見を分かりやすく伝えられる。 ・意見の違いや立場の違いを理解できる。 										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修		備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修		備考		
第1回	オリエンテーション	1) 演習授業の進め方の説明 2) グループワークの心構え			第16回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション		
第2回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第17回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション		
第3回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第18回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション		
第4回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第19回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション		
第5回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第20回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション		
第6回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第21回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション		
第7回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第22回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション		
第8回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第23回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション		
第9回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第24回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション		
第10回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第25回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション		
第11回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第26回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション		
第12回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第27回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション		
第13回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第28回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション		
第14回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第29回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション		
第15回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第30回	文献購読、報告および議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション		
評価 方法 及び 評価 基準	<p>レジュメ作成50%、報告50% レジュメの作成は、先行研究や関連分野の文献の収集および整理、構成と文章力、その内容の論理性などをルーブリックを用いて評価する。 報告は、発言頻度やその内容を評価する。</p>										
課題等	フィードバックとして報告内容やレジュメについてコメントを返します										
事前事 後学修	演習時にて次回予告を行うので関連するサイトや文献を事前に学習すること。また演習中に案内するサイトや文献による事後学習を行うこと。 準備学習時間の目安：1日あたり30分以上。										
教材 教科書 参考書	テーマの設定後に決定する。										
留意点	演習では積極的発言による参加、共同作業が求められる。参加意欲や学習姿勢に問題がある場合は減点となる。能動的学習姿勢での参加を求める。 自分自身のテーマを見つけ、それを文章および文字で表現するという作業に丁寧に取り組むことを期待する。 ゼミとしてソーシャルワークに関する活動の見学やボランティア、関連イベントや研修会に参加する場合もある。										

科目名	基礎演習Ⅱ		科目コード	W10315		単位数	4単位	対象学年	2年	開講学期	通年
			科目ナンバリング	W-BESE1-01.H		時間	60時間				
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	高橋 和幸				授業形態	演習	単独	
授業の概要	〔授業の主旨〕 学生による発表やディスカッションを中心とした主体的な活動を通して、学びと生活上の様々な問題への興味・関心を深め、専攻分野の学修への意欲と基礎的学修能力を高めるゼミ形式での授業を行う。具体的には、①1週間以内の新聞の中から興味・関心のある記事を選ぶ。②事例検討のために、記事をもとにビネットを作成する。③自身のとらえた問題と課題、具体的対策など、ディスカッションのための資料を作成する。④作成したビネットを紹介し、③の資料をもとにディスカッションする。⑤ディスカッションのまとめをする。という活動を繰り返すことで、課題発見力、文章力、ディスカッション能力などの向上を目指す。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2と3に関連し、カリキュラムポリシーの1と4に関連する。										
到達目標	1 暮らしの中にある様々な問題に関心を寄せ、その解決のための課題と対策をまとめることができる。 2 ビネットの作成やディスカッションを通して、課題発見力や文章力、ディスカッション能力、発想力を高めることができる。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修		備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修		備考		
第1回	オリエンテーション	・演習の進め方の説明 ・グループワークの心構え		グループワーク	第16回	発表・討議 (6)	・ビネットの発表と問題・課題の整理と対策の討議		プレゼンテーション・ディスカッション		
第2回	文献調査の手法の復習	・文献調査の様々な手法、入手方法に関する復習			第17回		・各自の学びから見出した答えの発表と討議		プレゼンテーション・ディスカッション		
第3回	資料収集の手法の復習	・新聞、白書、論文、調査報告などの資料の種類について再確認			第18回	発表・討議 (7)	・ビネットの発表と問題・課題の整理と対策の討議		プレゼンテーション・ディスカッション		
第4回	インターネット検索の功罪	・関係行政庁のホームページと論文検索サイトの利用の仕方を再確認		Web利用、情報リテラシー	第19回		・各自の学びから見出した答えの発表と討議		プレゼンテーション・ディスカッション		
第5回	引用ルールの確認	・文献を引用する際のルールを再確認			第20回	発表・討議 (8)	・ビネットの発表と問題・課題の整理と対策の討議		プレゼンテーション・ディスカッション		
第6回	発表・討議 (1) (教員主導で、演習の進め方の体験)	・発表担当者の作成したビネットの発表と問題・課題の整理と対策を討議する		プレゼンテーション・ディスカッション	第21回		・各自の学びから見出した答えの発表と討議		プレゼンテーション・ディスカッション		
第7回		・前時に解決できなかった、あるいは残された課題について、各自の学びから見出した答えを発表・討議する		プレゼンテーション・ディスカッション	第22回	発表・討議 (9)	・ビネットの発表と問題・課題の整理と対策の討議		プレゼンテーション・ディスカッション		
第8回	発表・討議 (2)	・ビネットの発表と問題・課題の整理と対策の討議		プレゼンテーション・ディスカッション	第23回		・各自の学びから見出した答えの発表と討議		プレゼンテーション・ディスカッション		
第9回		・各自の学びから見出した答えの発表と討議		プレゼンテーション・ディスカッション	第24回	年度末報告書の作成の仕方についてレクチャー					
第10回	発表・討議 (3)	・ビネットの発表と問題・課題の整理と対策の討議		プレゼンテーション・ディスカッション	第25回	年度末報告書のテーマ設定		・各自どんなテーマにするか検討、追跡調査の仕方を検討			
第11回		・各自の学びから見出した答えの発表と討議		プレゼンテーション・ディスカッション	第26回	各自どこまで執筆しているか中間報告		・一週間でどこまで執筆できたか報告しあう。			
第12回	発表・討議 (4)	・ビネットの発表と問題・課題の整理と対策の討議		プレゼンテーション・ディスカッション	第27回	年度末報告書の発表と討議①		・発表当番の学生が発表し、討議する。			
第13回		・各自の学びから見出した答えの発表と討議		プレゼンテーション・ディスカッション	第28回	年度末報告書の発表と討議②		・発表当番の学生が発表し、討議する。			
第14回	発表・討議 (5)	・ビネットの発表と問題・課題の整理と対策の討議		プレゼンテーション・ディスカッション	第29回	年度末報告書の発表と討議③		・発表当番の学生が発表し、討議する。			
第15回		・各自の学びから見出した答えの発表と討議		プレゼンテーション・ディスカッション	第30回	まとめ		・演習を通して学んだこと、今後の課題等についてまとめを行う			
評価方法及び評価基準	○演習への参加状況 35% ビネットの作成・発表 30% 年度末報告書 30%で評価する。 ・演習への参加状況は、主体的な授業参加の姿勢に加えて、企画力、課題発見力などを中心に評価する。欠席は1回につき3点を減ずる。 ・ビネットの作成・発表・年度末報告書は、課題設定の着眼点、文章構成と文章力、論理性などから評価する。										
課題等	発表担当回に使用(提出)したレジュメ・ビネット等は添削した後、次時間に返却する。記載内容が不十分な場合は再提出とする。										
事前事後学修	(予習)：「なぜ」「どうして」という問題意識を持って新聞を読むとともに、自分なりの問題解決のための課題設定と対策を考えること。1日あたり30分以上とする。(復習)：授業で出された課題や疑問点について、積極的に解決に努めること。図書館での文献収集あるいはインターネット検索等により調べること。復習は90分以上行うこと。										
教材教科書参考書	教科書：使用しない。参考書：いとう総研資格取得支援センター編(2019)『社会福祉士国試ナビ2021』中央法規 ISBN-978-4-8058-8140-8。適宜資料を配布する。										
留意点	○原則2回の授業(発表・討議)を1セットとして実施する。 ○資料作成・発表の担当となったときには、責任をもって資料作成を行い、ディスカッションを進行すること。										

科目名	基礎演習Ⅱ		科目コード	W10316	単位数	4単位	対象学年	2年	開講学期	通年
			科目ナンバリング	W-BESE1-01.H	時間	60時間				
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	柘植秀通				授業形態	演習	単独
授業の概要	〔授業の主旨〕社会福祉に関わる様々な施設・機関について学ぶ。特に訪問の機会を多く取り、通常では訪問する機会のない施設・機関などへも訪問を行う。また、訪問を行うためのアポイントとりなども、学生が行うように指導し、訪問の基本を学ぶ。									
到達目標	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1及び3と関連し、カリキュラムポリシーの1と関連している。 いわゆる福祉の専門分野のみでなく、その周辺の様々な施設・機関についても理解を持ち、大きな目で福祉を見ることができるようになる。									
授業計画										
回	主題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主題	授業内容・授業時間外の学修	備考			
第1回	オリエンテーション			第16回	オリエンテーション					
第2回	福祉の様々な機関について学ぶ1	福祉の施設・機関の概要について、講師の発表により学ぶ	グループワーク	第17回	後期訪問の機関について学ぶ1	後期に行きたい施設・機関について、発表等により学ぶ	グループワーク			
第3回	福祉の様々な機関について学ぶ2	福祉の施設・機関の概要について、学生が調査して発表し学ぶ	グループワーク	第18回	後期訪問の機関について学ぶ2	後期に行きたい施設・機関について、発表等により学ぶ	グループワーク			
第4回	勉強してみたい施設・機関について選出・学習1	訪問してみたい施設・機関について話し合い、行ってみたい施設・機関について考える	グループワーク	第19回	勉強してみたい施設・機関について選出・学習1	訪問してみたい施設・機関について話し合い、行ってみたい施設・機関について考える	グループワーク			
第5回	勉強してみたい施設・機関について選出・学習2	訪問してみたい施設・機関について話し合い、行ってみたい施設・機関について考え決定する。	グループワーク	第20回	勉強してみたい施設・機関について選出・学習2	訪問してみたい施設・機関について話し合い、行ってみたい施設・機関について考え決定する。	グループワーク			
第6回	訪問準備1	訪問のための準備（アポ取り）等の方法を決定、実践。	グループワーク	第21回	訪問準備1	訪問のための準備（アポ取り）等の方法を決定、実践。	グループワーク			
第7回	訪問準備2	訪問のための準備（アポ取り）等の方法を決定、実践。	グループワーク	第22回	訪問1	土曜日等を利用し、実際に訪問				
第8回	訪問1	土曜日等を利用し、実際に訪問		第23回	訪問1	土曜日等を利用し、実際に訪問				
第9回	訪問1	土曜日等を利用し、実際に訪問		第24回	訪問1	土曜日等を利用し、実際に訪問				
第10回	訪問1	土曜日等を利用し、実際に訪問		第25回	訪問振り返り・準備	訪問の振り返りを行う。	グループワーク			
第11回	訪問振り返り・準備	訪問の振り返り、次回の準備を行う	グループワーク	第26回	訪問準備	訪問のための準備（アポ取り）等の方法を決定、実践。	グループワーク			
第12回	訪問2	土曜日等を利用し、実際に訪問		第27回	訪問2	土曜日等を利用し、実際に訪問				
第13回	訪問2	土曜日等を利用し、実際に訪問		第28回	訪問2	土曜日等を利用し、実際に訪問				
第14回	訪問2	土曜日等を利用し、実際に訪問		第29回	訪問2	土曜日等を利用し、実際に訪問				
第15回	訪問振り返り	訪問の振り返りを行う。	グループワーク	第30回	全体振り返り	全体の振り返りを行う。	グループワーク			
評価方法及び評価基準	訪問先の決定、その準備に対して、意欲的に取り組み、また学ぼうとしているかを、観察評価する。									
課題等	随時、課題を提供し、それを次回には提出する。									
事前事後学修	訪問先について、報告書を作成し、特に掲示できるものを作成する。									
教材教科書参考書	特別に教科書を用いないが、訪問選択において、様々な書籍に接するようにする。									
留意点	何よりも、積極的に参加することが第一となる。									

科目名	基礎演習Ⅱ	科目コード	W10320	単位数 時間	4単位 60時間	対象 学年	2年	開講 学期	通年
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	大野 拓哉			授業 形態	演習	単独
授業の 概要	<p>〔授業の主旨〕 社会福祉関係の漫画を入り口として、そこで描かれている様々な事柄をとりあげ、これらを丹念に調べるなどして掘り下げ、さらには、関連する事柄にも視野を広げて、総合的な理解をはかる。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している</p>								
到達 目標	<p>「事実」に向き合ったとき、何が必要不可欠なことであり、何が必ずしもそうではないかを見極める力を養う。その上で、解決に至るプロセスを見出し、利用しうる社会資格等をフル活用していけるような構想力を身につける。</p>								
授 業 計 画									
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考		
第1回	ガイダンス①	何を・どのように学んでいくか		第16回	第三話を読む①	概要をつかむ			
第2回	ガイダンス②	レファレンスの方法		第17回	第三話を読む②	論点の抽出			
第3回	第一話を読む①	概要をつかむ		第18回	第三話を読む③	論点に関する学習			
第4回	第一話を読む②	論点の抽出		第19回	第三話を読む④	事実の再構成			
第5回	第一話を読む③	論点に関する学習		第20回	第三話を読む⑤	総括			
第6回	第一話を読む④	事実の再構成		第21回	第四話を読む①	概要をつかむ			
第7回	第一話を読む⑤	総括		第22回	第四話を読む②	論点の抽出			
第8回	第二話を読む①	概要をつかむ		第23回	第四話を読む③	論点に関する学習			
第9回	第二話を読む②	論点の抽出		第24回	第四話を読む④	事実の再構成			
第10回	第二話を読む③	論点に関する学習		第25回	第四話を読む⑤	総括			
第11回	第二話を読む④	事実の再構成		第26回	最終話を読む①	概要をつかむ			
第12回	第二の事例を読む⑤	総括		第27回	最終話を読む②	論点の抽出			
第13回	補足①	触れられなかった論点の学習		第28回	最終話を読む③	論点に関する学習			
第14回	補足②	触れられなかった論点の学習		第29回	最終話を読む④	事実の再構成			
第15回	前期の振り返り	残された課題と展望		第30回	最終話を読む⑤	総括			
評価 方法 及び 評価 基準	平常評価（準備・発表・討論への参加等）								
課題等	特になし								
事前事後 学修	事前事後を問わず、参考となる文献等のレファレンスに努めること。								
教材 教科書 参考書	さいきまこ『助け合いたい～老後破綻の親、過労死ラインの子～』秋田書店								
留意点	社会福祉実践コース・人間科学コースのいずれを選択している学生でも履修できる。								

科目名	社会福祉学研究方法		科目コード	W10318		単位数	2単位	対象学年	2年	開講学期	前期
			科目ナンバリング	W-BEMS1-02.S		時間	30時間				
区分	基礎教育科目	選択必修	担当者名	高橋 和幸・柘植秀通				授業形態	講義	複数	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>現代社会において発生する生活問題、福祉的課題は多様化し、これらに立ち向かう実践が果敢に行われている。しかし、せっかくの実践が研究としてまとめられていない。単に既存の社会福祉制度の範囲内で問題を効率的に解決することだけで終わらず、新たな社会福祉問題の解決方法、あるいは予防策といった開発的の視点を含んだ研究が求められる。本来、社会福祉は多様なテーマで研究されており、社会福祉士国家試験指定科目以外にも幅広い領域であることを本講義で知って欲しい。合わせて、研究の面白さも知ってもらいたい。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1と3に関連し、カリキュラムポリシーの2と4に関連している。</p>										
到達目標	社会福祉は多様なテーマで研究されていることから、その奥深さを知り、魅力を実感できること。										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容							備 考	
第1回	オリエンテーション (研究の自由と倫理を含む)		～社会福祉学研究の領域の広さ、その魅力について解説する(研究の自由と研究倫理を含む)。その後、孤立生活の防止のための繋がり構築、ひきこもりの若者への支援に焦点を当てた研究には多様なものがあることを確認する。							高橋(情報リテラシー教育、ディスカッション含む)	
第2回	子ども虐待、ドメスティックバイオレンスと援助		虐待を受けている子ども、親密圏の暴力とその援助実践に焦点を当てた研究には多様なものがあることを確認する。テキストⅡ部19及び23を予め読んで講義に臨むこと。							高橋	
第3回	薬物依存、ホームレスの援助		薬物依存患者、ホームレスに対する援助実践に焦点を当てた研究には多様なものがあることを確認する。テキストⅡ部25及び27を予め読んで講義に臨むこと。							高橋	
第4回	過疎地域の生活支援、被災地援助とソーシャルワーク		過疎地域の生活支援と地域再生、被災地援助とソーシャルワークに焦点を当てた研究には多様なものがあることを確認する。テキストⅡ部31及び32を予め読んで講義に臨むこと。							高橋(ディスカッション含む)	
第5回	スクールソーシャルワーク、福祉教育		教育と福祉の接点に目を向ける。スクールソーシャルワーク、福祉教育援助実践に焦点を当てた研究には多様なものがあることを確認する。テキストⅡ部41及び43を予め読んで講義に臨むこと。							高橋	
第6回	社会的ニードと、ポストモダンにおける福祉		個人と社会を媒介するもの、再帰性の高まった社会における問題の捉え方について学習する。この領域に焦点を当てた研究があることを確認する。テキストⅠ部01及び02を予め読んで講義に臨むこと。							柘植	
第7回	福祉の規範理論と、福祉の逆機能		ケアとコントロールの両義性、歴史研究による構造＝機能的理解、福祉ニーズの多様性とルール化について学習する。この領域に焦点を当てた研究があることを確認する。テキストⅠ部03及び04を予め読んで講義に臨むこと。							柘植(ディスカッション含む)	
第8回	福祉サービスの権利性と、社会的包摂と排除		福祉ニーズの多様性とルール化、包摂と排除概念の持つ意味について学習する。この領域に焦点を当てた研究があることを確認する。テキストⅠ部05及び06を予め読んで講義に臨むこと。							柘植	
第9回	アクティベーションと、仏教と社会福祉		社会的連帯経済の可能性と、福祉実践における価値観の再考について学習する。この領域に焦点を当てた研究があることを確認する。テキストⅠ部07及び13を予め読んで講義に臨むこと。							柘植	
第10回	脱施設化に関する研究		ノーマライゼーション思想の広がり地域生活移行に関する視点、その研究について学習する。テキストⅢ部45を予め読んで講義に臨むこと。							柘植	
第11回	認知症予防、介護予防の研究動向		介護保険施設に入所する高齢者の認知症ケアと認知症予防の最新研究成果について解説する。また、宇宙医学に学ぶ日本の介護予防、健康寿命を伸ばすことの難しさについても解説する。							高橋(ディスカッション含む)	
第12回	障害者リハビリの研究動向		障害者リハビリの研究動向について解説する。病気やケガが起因の障害のリハビリに加え、精神疾患患者のリハビリについてもお話しする。							高橋	
第13回	院内感染予防、施設内感染症対策の研究動向		院内感染予防、施設内感染症対策の研究動向について解説する。免疫力が弱い高齢者などが感染症で亡くならないようにするためにどうしたらよいかお話しする。							高橋	
第14回	医療事故防止、医薬品による副作用に苦しむ人々への対策の研究動向		医療事故防止、医薬品による副作用に苦しむ人々への対策の研究動向について解説する。医療機関における情報公開、リスク管理、患者の権利擁護についても考える時間にしたい。							高橋	
第15回	講義のまとめ		講義のまとめを行う。初回からこれまでの講義で重要事項として指摘した箇所をノートに記し、この講義回までに備えること。							柘植・高橋	
評価方法及び評価基準	試験を1回実施し評価する。定期試験では、到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出す。【知識・理解】の観点から評価する。										
課題等	【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から講義時に学生を指名して返答(発表)を求め、レポートないしは小テストで理解レベルを測定し、その提出も求める。レポートを課した場合は次時間に返却する。										
事前事後学習	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該配布プリント並びに下記教科書や参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。										
教材教科書参考書	岩崎晋也・岩間伸之・原田正樹(2014年)『社会福祉研究のフロンティア』有斐閣 ISBN978-4-641-17399-6										
留意点	【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から、講義時に学生を指名して返答(発表)を求めることがある。そのため、自分の考えを論理的に記述または発表できるように、講義は集中して聴くようお願いしたい。										

科目名	人間科学研究方法		科目コード	W10319		単位数	2単位	対象学年	2年	開講学期	前期
			科目ナンバリング	W-BEMS1-03.S		時間	30時間				
区分	基礎教育科目	選択必修	担当者名	立花 茂樹 ・ 宇田 宗弘 棟方 達也 ・ 高橋 和幸				授業形態	講義	オムニバス	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>人間を対象とした研究を行うときに採用されている保健・医療、スポーツ科学、社会福祉学、教育学等の研究法の概要を学ぶ。その上で、「弘前」をキーワードに学生自身の抱く問題意識をもとに課題を設定し、インタビュー法や観察法を用いて、情報収集・分析解釈・成果の発表という一連の知的活動の流れを体験する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの3に関連する。</p>										
到達目標	<p>1 「人間と社会の関わり」を捉えるさまざまな研究の方法、考え方、技法等を学び、その特質や利点、注意すべき事項等を整理することができる。</p> <p>2 インタビュー法か観察法のいずれかの手法を用いて、実際に調査研究を体験し、レポートの作成、発表を行う。</p>										
授業計画											
回	主題		授業内容						備考		
第1回	オリエンテーション「研究」とは		講義の概要と到達目標、スケジュール等の説明を行う「研究」とは、どのような意味をもつ知的行為であるかを捉える						担当：立花		
第2回	保健・医療分野における研究		保健・医療分野におけるいくつかの研究論文を読み比べ、その共通点と相違点を明らかにすることで、各研究の特徴を理解する						担当：宇田 グループワーク		
第3回	スポーツ科学分野における研究（1）		スポーツ科学とはどのような学問なのか、総合科学としてのその広くて深い研究の世界を概観する						担当：棟方		
第4回	スポーツ科学分野における研究（2）		最新のスポーツ科学の現状を例示し、その功罪や課題を問う						担当：棟方		
第5回	学校教育分野における研究		学校現場で行われている実践研究の特徴と近年取りあげられることの多い研究領域・テーマを概観する						担当：立花		
第6回	社会福祉分野における研究（1）		介護保険施設に入所する高齢者の認知症ケアと認知症予防の最新研究成果について解説する						担当：高橋		
第7回	社会福祉分野における研究（2）		過疎地域の生活支援、孤立生活の防止のための繋がり構築支援を事例に、2つの研究領域において、どのような調査手法で研究が進められているか解説する						担当：高橋		
第8回	人間科学における研究倫理		研究倫理の歴史的背景と倫理審査の内容、および研究不正行為についての理解を深める						担当：宇田		
第9回	データ収集の方法		「インタビュー」「観察」「ドキュメント分析（文書研究）」の進め方と注意すべき事項を理解する						担当：立花		
第10回	フィールド研究の課題設定		「弘前」に関する学生それぞれの関心ある課題を発表・協議し、グループ課題を設定する						担当：立花 グループワーク		
第11回	調査研究の実際（1）		調査研究を行うための計画の作成と準備を進める						担当：立花 グループワーク		
第12回	調査研究の実際（2）		計画に基づき調査を行う						担当：立花 グループワーク		
第13回	調査の分析と考察		調査結果の分析と考察を行う						担当：立花 グループワーク		
第14回	調査の分析と考察 報告会資料の作成		調査結果の分析と考察を行う レポートの作成と発表会資料の作成を行う						担当：立花 グループワーク		
第15回	まとめ（ミニ報告会）		調査研究の結果をパワーポイントやポスターで発表する 発表内容に関する質疑と意見交換を行う						担当：立花 発表と協議		
評価方法及び評価基準	<p>第1回から第9回までの授業各回に5点を配分（合計45点）し、リアクションシートにより授業内容の理解度を評価する。第10回以降は、グループ活動への取り組み状況（積極性、協調性、意見発表等）15点、レポート内容（論理性と表記の正確さ等）25点、発表資料の作成と発表（見やすさ、説得性等）15点とし、それらの総合点で評価する。</p>										
課題等	作成したレポートは冊子にまとめ、全受講生に配布する。										
事前事後学修	大学での学びは、授業時間に加えて同時間の予習・復習等の学びによって成り立っていることを理解し、授業時間外の学びを計画的に進めることで、到達目標を達成するよう努めてほしい。										
教材教科書参考書	教科書・参考書：用いない。随時資料を配布する。										
留意点	事前事後学習欄にも記載したが、限られた授業時間の中だけでは上記授業計画に記載した内容を遂行することは難しいことから、グループの仲間で、空き時間等を調整して自主的・主体的に学習を進めてほしい。また、基礎演習の学びを活かして、図書館やインターネット等の利用により先行研究・資料等を収集したり研究発表の方法を検討したりしてほしい。										